



2014年4月1日

新規技術・WT1 ペプチベータ(MACS® GMP PepTivator® WT1)の導入で 治療対象患者拡大および治療効果向上へ

— 患者さんの白血球の型を問わない WT1 抗原を用いた樹状細胞ワクチン療法の提供開始 —

医療法人社団滉志会瀬田クリニックグループは、4月1日より、「MACS® GMP PepTivator® WT1」¹(以下、「WT1 ペプチベータ」)を用いた樹状細胞ワクチン療法の提供を開始致します。

今回、新たに提供する WT1 ペプチベータを用いた樹状細胞ワクチン療法は、これまで白血球の型(HLA型)によって治療が提供できなかった患者さんに対しても治療が提供できるようになったことに加え、CTL(キラーT細胞)を活性化、増強するヘルパーT細胞を増やすことにより、治療の更なる有効性向上が期待されます。

《 WT1 ペプチベータを用いた樹状細胞ワクチン療法のメリット 》

● どのような白血球の型(HLA型)の患者さんでも利用可能

WT1 は、様々ながんに発現していることが報告されているタンパク質であり、有望ながん抗原の一つと考えられています。従来は、その断片である WT1 ペプチドを樹状細胞ワクチン療法に用いる場合がありましたが患者さんの白血球の型(HLA型)の検査の結果、型が合わない場合は WT1 ペプチドを用いた治療を行うことができませんでした。

今回、瀬田クリニックグループが導入するWT1 ペプチベータは、配列が異なった複数のペプチドの混合物であり、WT1 タンパク質の全配列をカバーしています。そのため、どのような HLA 型の患者さんに対しても WT1 を使った樹状細胞ワクチン療法の実施が可能となりました。

● CTL(キラーT細胞)とヘルパーT細胞の双方を増やす

WT1 ペプチベータは、樹状細胞ワクチン療法において直接的にがんを殺傷する CTL(キラーT細胞)を増やし、更に、CTL(キラーT細胞)を増強するヘルパーT細胞も同時に誘導できることが見込まれることから、従来のものよりも高い治療効果が期待されています。

WT1 ペプチベータを用いた樹状細胞ワクチン療法、ならびに従来の WT1 ペプチドを用いた樹状細胞ワクチン療法を実施する場合、CTL(キラーT細胞)の攻撃目標となる WT1 抗原が、がん細胞に出ているかどうかを調べる検査が必要です。大学病院などの臨床試験では、治療の適応を決定する際に必ず行われる検査ですが、民間医療機関で免疫細胞治療が提供される場合には、検査を実施し、適応を判断するケースは限られています。瀬田クリニックグループでは、攻撃目標である WT1 の発現状況を調べる検査を実施し、治療前に適応を判断することで、患者さんにより効果的な治療を提供してまいります。

なお、本治療の提供開始に先立ち、独国ミルテニーバイオテック GmbH 社から WT1 ペプチベータの提供を受け、欧州・豪州・韓国・米国および日本で樹状細胞ワクチン療法の技術的特許を有する株式会社メディネット(神奈川県横浜市)の技術提供のもとで解析研究を行いました。その結果、WT1 ペプチベータを用いた樹状細胞ワクチン療法が安全に実施可能であり、抗腫瘍効果を発揮する CTL(キラーT細胞)を誘導することが確認されています。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区飯田橋 3-6-5 こころとからだの元氣プラザ 8 階

TEL: 03-3511-0150 <http://www.j-immunother.com/>

ⁱ MACS、PepTivator は Miltenyi Biotec GmbH の登録商標です。

【 医療法人社団 混志会 瀬田クリニックグループについて 】

1999 年 3 月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」を開院、現在は、瀬田クリニック東京(東京都千代田区)、瀬田クリニック新横浜(神奈川県横浜市)、瀬田クリニック大阪(大阪府吹田市)、瀬田クリニック福岡(福岡県福岡市)の4クリニックを開設しています。開院以来、約 17,000 名の患者さんに対し、約 13 万回の治療を提供しています(2014 年 3 月現在)。2009 年に設置した臨床研究センター(現:臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidence の強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。